

市独自でヒブと子宮頸がんの

ワクチン接種費用を助成

市では、市民一人ひとりの健康づくりを支援するため、「健康づくり推進計画21」に基づき、生活習慣病予防や乳幼児の栄養指導などに取り組み一方で、保護者の経済的負担の大きいヒブワクチンと子宮頸がんワクチンの助成を検討し、10月15日から接種費用の半額相当額の助成を開始しました。

市民一人ひとりの生活様式にあった健康づくりを支援するため、「健康づくり推進計画21」に基づき、生活習慣病予防や乳幼児の栄養指導などに取り組み一方で、保護者の経済的負担の大きいヒブワクチンと子宮頸がんワクチンの助成を検討し、10月15日から接種費用の半額相当額の助成を開始しました。

画21に基づき、生活習慣病予防や乳幼児の栄養指導などに取り組み一方で、保護者の経済的負担の大きいヒブワクチンと子宮頸がんワクチンの助成を検討し、10月15日から接種費用の半額相当額の助成を開始しました。



一方で、乳幼児期に発症すると死亡や後遺症を残す可能性が高い「細菌性髄膜炎」の主な原因菌のヒブと、全国で年間約1万5千人が発症し、約3千500人が死亡しているとされる子宮頸がんのワクチン接種は、全額自己負担の任意接種のため、保護者の費用負担が大きいことから、市

では助成の検討をしてみました。
接種は指定医療機関で

そこで、市民の皆さんが受ける、ヒブと子宮頸がんワクチン接種費用の半額相当額を、10月15日から、市が独自に助成しています。

対象者は、ヒブワクチンが生後2か月から5歳未満の乳幼児で、子宮頸がんは、小学5年生から中学3年生までの女子です。

また、助成額はヒブワクチンが1回4千円（接種開始年齢により4回まで）で、子宮頸がんワクチンが1回9千円（3回まで）ですが、いずれも市の指定医療機関での接種が対象となります。

指定医療機関と接種できるワクチンなどの一覧は、市報10月15日号2面の表をご覧ください。

助成の手続は不要です

接種を希望する方は、事前に指定機関への予約が必要で、受診時には、母子健康手帳をご持参ください。

なお、接種後の医療機関への支払い、助成額を差し引いた自己負担分のみで、助成の手続は不要です。

助成額と窓口支払額

医療機関での窓口支払額は、接種費用から助成額を差し引いた金額となります。

窓口支払額 (自己負担額)	=	ワクチン 接種費用	-	ヒブ 子宮頸がん	《助成額》
					4,000円
					9,000円

※接種費用は医療機関により異なりますので、各医療機関に直接お問合せください。

江川地区での自然再生の取組みを

名古屋での国際会議で発表

地域が抱える生物多様性の課題や先進的な取り組み事例の情報交換し、各地の地域づくりに活かそうと、生物多様性条約第10回締結国会議(COP10)の一環で、国内外の自治体が集まる「生物多様性国際自治体会議」が名古屋市内で開催されました。

野田市は、10月25日、「生態系に配慮した都市開発および

政策」分科会で、タイ、中国、カナダ、ベルギー、鎌倉市、京都府、愛知県と並び、「野田市江川地区における自然再生地域づくり事業」野田市から首都圏への提案」と題して、根本市長(写真右)が講演しました。

江川地区でのビオトープ化への取り組みや、玄米黒酢を使う減農薬による農業、さらには首都圏にコウノトリやトキが舞う



各国の自治体関係者約200人を前に

ような環境づくりを進めていきたいと、写真や資料などを使いながら世界へも向けて発信し、独自の取り組みが評価されました。

【問合せ】みどりの課

無料の子宮頸がん検診も
市では、特定の年齢の方を対象とした無料の子宮頸がん検診も実施しています。
なお、今年度は6月から10月で終了しました。
※来年度の実施期間や対象者などは市報毎月15日号「健康ガイド」でお知らせします。
【問合せ】保健センター ☎7125-11188・関宿保健センター ☎7198-5011